

里山には 「ふしぎ」がいっぱい!!

特集号
小学校高学年

「里山」って、いったいどんな所のことをいうのかな？



わたしといっしょに
里山について勉強しよう

下の絵をヒントに、
「里山」とはどんなところか
考えてみよう!



地域と連携した里地希少野生生物保全対策事業-人とメダカの元氣な里地づくり- (パンフレット 企画・製作 里地ネットワーク 発行 福井県)より転載

「里山」はこんなところ!



たとえば、里山の田んぼでは…

- 👉 人がイネを育て、お米を作る。
- 👉 たくさんの生き物がくらすことができる。
- 👉 人が、田んぼからの収穫に感謝するお祭を行う。
- 👉 大雨が降ったときに、洪水を防ぐのに役立つ。
- 👉 他にどんな役わりがあるか調べてみよう。



答え：人と自然が、なかよくくらしている所が「里山」なんだよ

田畑の肥料にするため、落ち葉を集め、取り除く。
→カタクリなどの春の花がよく育つ。

森がなくならないよう、場所を決めて木を切る。
→森にいろいろな大きさの木が育ち、いろいろな生き物のすみかになる。

田畑に水を取り入れるための水路を、くずれたり、埋まったりしないように管理する。

→水路に水が1年中流れ、魚や貝などの生き物のすみかになる。

牛や馬のエサや肥料にするため、草を刈る。
→害虫が少なくなり、秋の草木がよく育つ。

田んぼでイネを育てる。

→大きな草が生えにくくなり、浅い水辺で卵をうむメダカやフナなどのすみかになる。

里山について調べてみよう

里山生き物調査隊

里山には、いろいろな生き物がいるけれど、わたしは、田んぼがあるから生きていけるんだ。その秘密を調べてほしいな。



里山恵み調査隊

人は里山からの恵みを生活にうまく役立て、自然といっしょに生きてきたんだ。人と自然のつながりを調べてほしいな。



学習のポイント

- ◆ 観察や実験をしてみよう。
- ◆ 地域の人にインタビューしてみよう。
- ◆ いろいろな本やインターネットを利用してみよう。
- ◆ みんなができることは何か考えてみよう。

里山生き物調査隊

その1 田んぼには、どんな生き物がいるか、調べてほしいなあ…



その2 田んぼでお米を作らなくなると、わたしは生きていけないんだけどなあ…



その3 田んぼの生き物を守るために、いろいろ活動してほしいなあ…



調査のポイント

① 調べる生き物を決めよう!



- 田んぼの生き物(魚、カエルなどの動物、コナギなどの植物 など)
- 家の周辺の生き物
(チョウなどのこん虫、ツバメ・スズメなどの鳥、スギナなどの植物 など)
- 水辺の生き物(魚、水生こん虫、水草 など)
- 海の生き物(岩場の動植物、砂浜の動植物 など)
- 森の生き物
(イノシシなどのほ乳類、樹液に集まるこん虫、カタクリなどの植物 など)
- 外来の生き物
(アメリカザリガニなどの動物、オオキンケイギクなどの植物 など)



② 何について調べるかはっきりさせよう!



A. 生き物のくらし

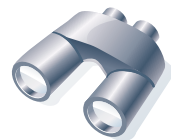
- 何を食べるか?
- どこにすむか?
- いくつ卵をうむか、実をつけるか?
- どんな赤ちゃんか、どんな芽生えか?
- へっているか、ふえているか?
- 生き物と人とのつながりは?

B. 生き物を守る工夫

- 人に近い場所か、遠い場所か?
- 森か田んぼか畑か川か?
- 誰が行っているのか?
- どんな活動をしているか?
- どんな生き物を守っているか?
- 生き物を守る理由は何か?

③ どうやって調べるか決めよう!

- 野外観察や実験をする。
- 生き物を飼ってみる、育ててみる。
- 家の近くをさがしてみる。(見つけた場所を地図にマークしよう)
- 動物園、植物園、自然保護センター、海浜自然センターに行く。
- 専門の先生や地域の人にインタビューする。
- 図かんで調べる。(図書館に行こう)
- インターネットを活用する。



里山恵み調査隊

その
1

人は、里山の自然から、どんな食べ物をもらっているのかなあ…



お米



ブリ・ハマチ



人が自然から受けているいろいろな食べ物をたくさん調べてみよう。

その
2

人は、昔から、自然をうまく利用して、生活に役立っているんだなあ…



越前和紙(越前市)



千古の家(坂井市)



自然の恵みを利用した地域の伝統工芸や、むかしから残っているものを調べてみよう。

その
3

人の活動が、里山の自然を守ることにもなっているんだなあ…



間伐作業



アメリカザリガニの駆除



オオキンケイギクの駆除

外来種を駆除する



人の活動が自然を守ることになっている場所を調べてみよう。

調査のポイント

1 調べることを決めよう!

たくさん
調べてみてね!



- 里山の恵みについて調べる。
- 昔から伝わるお祭や人の暮らし方と里山の間係を調べる。
- 人の活動が自然を守ることになっている例を調べる。

2 調べることをはっきりさせよう!

A. 里山の恵み

- 昔から伝わる料理には、地元の食べ物が使われているか?
- 伝統工芸には、どんな材料が使われているか?その材料はどこで手に入れられるか?
- 昔の生活では、何を燃料に使っていたか?その材料は、どこにあるか?

B. 行事や人の暮らし方と里山の間係

- 地域のお祭や人の暮らし方には、どんな歴史があるか?
- その歴史は、地域の自然と間係があるか?

C. 人の活動が自然を守ること

- 自然に人の手を加えることで、かえって自然を守ることに役立ってきた活動にはどんなものがあるか?
- 里山で行われている自然を守る活動を調べてみよう。

3 調査方法を決めよう!

- 実際に出かけて取材する。(インタビューする、写真やビデオを利用する)
- 伝統料理や伝統工芸、お祭、自然を守る活動を体験してみる。
- 本やインターネットで調べる。

わたしたちのまわりには、豊かな里山が広がっています。
この里山を守っていくには、どうするとよいでしょうか。
一人一人が課題を見つけて、里山の自由研究をしてみましょう。

研究のきっかけ

湖の自然を守るためにいろいろな取り組みをしてみました。生き物が増えたように見えなかったのに、本当は水はきれいになっているのか不思議だと思いました。

研究の目的

湖にたくさんの生き物がくらすようにするには、どんな活動が大切なのかを調べます。

予想

湖に生き物があまり増えていないようなので、水質はよくなっていないし、地域の人もきれいな水だとは思っていないと思います。

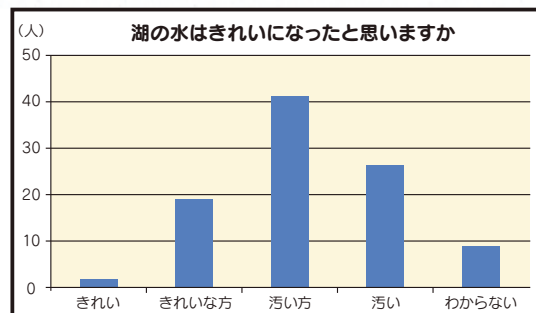
研究の方法

水質調査：CODと透明度の調査を行って、10年前と比べました。

意識調査：地域の人へアンケート調査を行って、湖の水への意識を調べました。

研究の結果

Y1 (福井県あわら市吉崎1丁目)		気温 (°C)	水温 (°C)	COD (mg/l)	透視度 (cm)
7月下旬	今回	28.5	25.5	12.5	31.0
	10年前	27.0	27.0	16.7	27.5
8月上旬	今回	28.5	29.5	8.5	74.5
	10年前	31.0	30.3	10.0	45.3
8月下旬	今回	28.5	28.0	9.5	54.0
	10年前	26.5	27.0	12.5	33.5



※データ出所：平成24年度子どもエコクラブ壁新聞コンクール作品「守ろう！ぼくらの北潟湖～吉崎赤手ガニ調査隊が行く～」より

水質調査：10年前と比べて、どの時期もCODの値は下がり、水質はよくなっています。

水の透明度も上がり、特に8月上旬は30cm近くもよくなっています。

意識調査：きれいだと感じる人は少なく、70%をこえる人が、湖の水は汚いと感じていました。

わかったこと

水質の改善と地域の人々の意識は一致しておらず、水質以外にも大事な点があるのかもしれないということがわかりました。

これからの私たちの活動

生き物の種類や数など、水質以外についても調べたいと思います。また、地域の人には、湖の変化に気づいていないかもしれないので、もっと関心を持ってもらうよう発信していきます。

まとめかたは…



- 壁新聞
- 発表
- 研究レポート
- 絵
- インターネット(ホームページ) など

作成者 福井県安全環境部、福井県教育庁
協力 田中 典夫(坂井市立三国中学校校長)
関岡 裕明(環境アセスメントセンター所長)
発行 平成25年6月 福井県安全環境部環境政策課
〒910-8580
福井県福井市大手3丁目17番1号
TEL 0776-20-0301